

「好き」の因数分解

最果夕ヒ

すきなものっていいですよ。私は本はもちろん、お昼寝やおやつも好きだし、ライブに行くのも好きです。お買い物やお散歩、アイドルを見ることが楽しいなあ、と思います。今月紹介するのは『「好き」の因数分解』。神戸出身の詩人、最果夕ヒさんの本です。48の「好き」が紹介されていて、読んでみると「好き」度が伝わってきて、こちらもわくわく、好きになっちゃいそうなものばかり。キャラクターやアーティスト、場所や食べ物など、縦横無尽に語られています。48個も好きなものが挙げられるってすごいと思いませんか？わかるわかる！と思うものもあれば、そうなんだー、と納得するものもあって、もしかしたら初めて知ることあるかもしれません。なかなか誰かの「好き」なものを一気に知る機会は少ないと思うので、読んでみるとおもしろいと思いますよ。「何か」が好き！な人の目を通して語られると、より一層すてきなものとして伝わってくる気がします。言葉を操る詩人であればなおさらのこと。自分では説明できなかった良さや、気づいていなかったことにくっきりと輪郭がついたり、どうして好きなのか、改めて考えるきっかけをくれたりします。同じものを見ても1人1人感想が違いうように、説明する人によってどこが好きなのか、どう表現するのか、といった切り取り方はそれぞれ。多面的に「何か」を見る手助けにもなります。好きに理由はないけれど、なぜそれに惹かれるのか考えてみるとおもしろいかもしれません。今年の夏休みは、昨年までとは全然違う過ごし方が多かったと思います。そんな今、自分を元気にさせられる手段は多いに越したことはありません。好きだな、と思えることがたくさんあるとちょっと安心できると思います。みなさんの「好き」なこと・ものが1つでも増えますように。

最果夕ヒ

1986年、神戸市生まれ。中原中也賞、現代詩花椿賞などを受賞。詩集『夜空はいつでも最高密度の青色だ』は、石井裕也監督により映画化。主な詩集に『死んでしまう系のぼくらに』、エッセイ集に『きみの言い訳は最高の芸術』、小説に『十代に共感する奴はみんな嘘つき』などがある。